

◆一関出張所管内を流れる東北地方で一番大きい北上川は、平泉文化の繁栄に深く関わっています。今後、北上川と平泉文化の歴史についてシリーズ化してご紹介していきます。

北上川と共に生きた平泉文化

第1弾



今後シリーズ化して掲載する文章・年表・地図等は、平成24年度に下記の関係諸機関に確認を得て作成しました。ご協力いただきました皆様に感謝の意を表します。
(社)平泉観光協会 平泉文化遺産センター 奥州市教育委員会 中尊寺 毛越寺 (順不同)



高館

北上川沿いに位置する標高66mの小高い山。雄大な北上川の流れや、栗稻山をはじめとする北上川東岸の山並み、田園風景が見渡せる景勝地です。

1689(元禄2)年に松尾芭蕉が、「夏草や兵どもが夢の跡」の句を詠みました。頂上には、芭蕉が訪れる6年前に仙台藩主・伊達綱村が建てた「義経堂」があります。



毛越寺

中尊寺と同じく、慈覚大師円仁が開山し、二代基衡から三代秀衡の時代に造営されました。お堂や塔が40以上、お坊さんが生活する建物は500以上あったそうですが、相次いだ火災により、当時の建物は残っていません。大泉が池は海岸の美しさを表し、遣水(池に水を取り入れる水路)は自然の小川のように造られています。

【世界遺産登録】



中尊寺

850(嘉祥3)年、比叡山延曆寺の高僧慈覚大師円仁が開山、その後、奥州藤原氏の初代清衡が、本拠地を江刺の豊田館から平泉に移し、1105(長治2)年に造営に着手しました。中尊寺建立の趣旨は、前九年の合戦・後三年の合戦で亡くなった多くの人の霊をなぐさめ、浄土を造るというものでした。

【世界遺産登録】



柳之御所遺跡

高館の麓から北上川沿いに広がる一帯は、奥州藤原氏の初代清衡、二代基衡の居館跡と伝えられてきました。これまでの発掘調査により、12世紀後半の平泉遺跡群の中でもずば抜けた質と量の遺物、遺構が見つかりました。このことから遺跡は「吾妻鏡」に記載されている平泉館(政庁)に想定されており、平成22年4月から史跡公園として公開されています。



金鶏山

中尊寺と毛越寺のほぼ中間に位置する円すい状の優美な山。平泉の都市設計基準となっていたと考えられています。山頂の経塚は奥州藤原氏時代に複数造られており、信仰の山でもありました。奥州藤原氏により、一晩で築かれたとか、山頂に雌雄一対の黄金造の鶏が埋められているなどの伝説が残っています。

【世界遺産登録】



観自在王院跡

二代基衡の妻が建立したと伝えられる寺院跡。ほぼ完全に残っている浄土庭園の遺構は、平安時代に書かれた日本最古の庭園書「作庭記」の作法どおりと考えられています。池の北岸に大阿弥陀堂と小阿弥陀堂が設けられていたことから、極楽浄土を表現した庭園と考えられており、今は史跡公園となっています。

【世界遺産登録】



無量光院跡

三代秀衡が京都宇治の平等院鳳凰堂を模して、ひと回り大きく建立した寺院の跡。現在は、建物は焼失し礎石が残っているだけです。正面に立つと、中島・本堂が一直線に並び、その先には金鶏山が望めます。稜線上に沈む夕日に極楽浄土をイメージした、浄土庭園の最高傑作といわれています。

【世界遺産登録】

※北上川学習交流館 あいぼーと展示資料より

編集後記

中尊寺へ向かうために登る月見坂は、想像よりも傾斜があって大変ですが、眼下に広がる風景と同時に思いを馳せると、ロマンを感じます…❀(や)